

社会的背景から「当たり前」を問い直す小学校家庭科実践 ー食品ロスとエコクッキングをつなげてー

浅野 紗矢香* 川野 倫枝* 山根 真理** 筒井 和美**

*附属名古屋小学校

**家政教育講座

Home Economics Practice in Elementary School Questioning the “Natural” from Social Background: Connecting Food Waste to Eco-cooking

Sayaka ASANO*, Michie KAWANO*, Mari YAMANE** and Kazumi TSUTSUI**

*Nagoya Primary School Affiliated to Aichi University of Education, Nagoya 461-0047, Japan

**Department of Home Economics Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

Keywords：エコクッキング 社会的背景 食品ロス 批判的思考

I はじめに

社会的背景から「当たり前」を問い直すことを目指し、エコクッキングを題材に取り入れた授業研究（5年生）¹⁾を行った。

グローバル化が進み、ICTテクノロジーが日常に浸透する現在、生活の成り立ちを理解し、いかに生活を創るかを考えることは、難しい。現代の子どもたちにとって、自分が着るもの、食べるもの、買うものが世界のどこから来ているのか、自分の生活が世界の様々なところに住む人々や自然環境にどのような影響を与えているかを、自分事として理解したり、考えたりする機会は少ない。（堀内、2020）

本授業研究はこのような認識に基づき、子どもたちが生活のなかの「当たり前」を問い直す批判的思考（土屋、2020）を働かせ、「食品ロス」という社会問題と自分の生活をつなげ、環境への負荷軽減を意識したエコクッキングについて考え合い、調理実習を行う経験を通して、生活の成り立ちを理解しながら生活を創造する力を養うことを目指した。

II 実践内容

1 附属名古屋小の研究と関わって

本校では、「みんなわくわく授業デザイン」をテーマにした研究を行っている。令和4年度の研究は、「わくわく」に「つながる」を新たに加え、様々なつながる場をデザインすることで、子どもたちが自ら学び、ついやってみたいくなる学びを実現できないか模索してきた。家庭科部では、「社会とつながる」をキーワードに、授業デザインを考えた。

児童が生きる社会は変化を続け、家庭生活に様々な影響を与えている。社会的背景と家庭生活を切り離すことはできないが、普段子どもたちは、家庭生活の向こう側にある社会的背景に目を向けることは少ない。ニュースなどで報道されていたとしてもそれを自分事と捉えてはいないだろう。だからこそ、社会と家庭生活がつながっていることを知り、そのつながりを自分事だと認識することで、家庭科の「見方・考え方」を使って家庭生活の当たり前を問い直すことができるのではないかと考え、本実践を行うこととした。

2 実践概要

家庭科の授業の中で「わくわく」する題材と言えば、調理実習が含まれる題材を思い浮

かべる人が多いだろう。調理実習の児童の様子を観察していると、好きな食材を楽しそうに選ぶ姿をよく目にする。しかし毎日の食卓に並ぶ料理は、好きな食材だけで作られておらず、食材選びの観点は、いくつも存在するはずである。児童の選択からは、食材選びの観点が少ないことは明らかだった。

そこで調理実習をする際、ゆでる調理の知識及び技能の習得に加え、食品ロスを社会的背景として取り上げ、「社会問題とつながる場」を設定した。食品ロスにはコンビニやスーパーから出される廃棄物の他に、家庭から出される食品廃棄物も含まれる。家庭での食品ロスは主に、食べ残し・過剰除去・直接廃棄に分けられる。これらを提示した後、家庭の冷蔵庫に食べきれなかった余り野菜があることに気付かせた。これにより、家庭生活の当たり前を問い直すことで、児童調理においてより環境に配慮した食材選びや調理方法を工夫するであろうと考え、実践を行った。

3 実践における題材構成

題材は、「おいしい楽しい調理の力」10時間完了とし、本校家庭科部では、題材構成を「出合う」「追究する」「生かす」の3段階で構成した。

「出合う」段階では、題材とどのように出合うかを大切にしている。普段の生活の中の知恵や価値に気付かせることで「わくわく」が生まれる。その「わくわく」が題材への意欲付けになる。本実践では、ゆでいもとおひたしを調理する中でゆでる調理に関する知識及び技能を習得し、題材の導入から調理実習を行うことで、ゆでる調理への意欲を高めた。

「追究する」段階では、高まった意欲を原動力として、自己のよりよい生活を追究していく。本実践では、ゆで野菜サラダの調理実習を行った後に、食品ロスの問題を取り上げ、自分たちが行うことのできるエコクッキングについて追究し、自分たちで考えたエコクッキングを調理実習で再現することで、環境に

配慮した調理について思考する。

「生かす」では、環境に配慮した調理の追究で培った知識及び技能を基に、自分の生活と照らし合わせて深く考えることで、この題材で学んだことを自分事にし、自己の生活を問い直し、家庭科の学習で学んだことを生活の中でどのように活用していくかを考える。

4 実践の様子

以下、実践の様子については、前述の「追究する」段階の様子を報告する。

(1) ゆで野菜サラダの調理実習

ゆでる調理と出合った後、ゆで野菜サラダの調理実習について児童に伝えた。初めて自分たち自身で計画して行う調理実習に意欲を高めている様子が伺えた。

まず、サラダの役割について「健康・快適・安全」の見方・考え方を働かせて学習を行った。次に、栄養を考慮してゆで野菜サラダの食材選びを行った。食材選びをしている時、児童からは「ベーコンやチーズを使ってもよいか」と好きな食品を入れたいことを教師に聞いたり、「苦手な野菜は何?」「ピーマンは絶対に入れないでほしい」と好き嫌いで食材を選ぼうとしていたりする様子が見受けられた。話し合いの時の児童は終始笑顔で、調理実習を楽しみにしていることが伺えたが、好きなものが食べられるから「わくわく」しているに過ぎない状態だった。

調理実習後の振り返りでは、「栄養・見た目・ゆで方・切り方」の観点で記述している児童が多かったが、調理実習や家庭科の授業で気を付けたいことや改善したいことを記述している児童が大半であり、家庭科で学んだことを自己の生活の中に取り入れようとする意欲は高まっていない様子であった。調理実習中に、環境に関する発言はなく、振り返りにも環境について記述している児童はいなかった。

(2) 食品ロスとエコクッキング

家庭科の見方・考え方の中に「持続可能な

社会」の項目がある。児童にはこれからの生活で意識して取り組んでももらいたいと考えている項目だが、前述の通り一度目のゆで野菜サラダの調理実習を終えた時、環境について考えている児童はいなかった。そこで食品ロスという社会問題を紹介し、普段の生活に潜む社会的背景に目を向ける機会を与えた。

食品ロスについて紹介する前に、まず、エコッキングという言葉から予想できることについて話し合った。児童からは「環境によい」「無駄遣いしない」というイメージがあると返ってきたため、環境によくて、無駄遣いしない調理の工夫を考えるように声を掛けた。児童からは「食材の食べられる部分を捨てないようにする」のような、調理に関わる意見が発表された。しかし、「水を節約する」「残さず食べる」「洗剤をあまり使わないようにする」などの記述をしている児童は、発表するに値する内容なのか躊躇している様子であった。資料1の板書からも調理の欄の意見が多く、そこを調理の中心と捉えている児童が多いことがわかる。これは「ゆでる」という食材を加工する工程だけが調理だと認識している児童が多いためだと考えた。

資料1 本実践における「追究の段階」の板書

ゆで野菜サラダでエコッキングに挑戦！ いなり(巻物)で作るゆで野菜サラダ			
準備(買う)	調理	食べる	片付ける
度々、食材を元々食べ残すものが多い	皮ごと使ったり、食べ残すものが多い。食べ残すものを活用する。 他、調理に使うものも活用する。	残さず食べ残すものを活用する。 皿にも	食べ残すものを活用する。 プラスチック容器に

そこで、児童の発表の最中に、調理とは食材を加工する工程だけで完結するものではなく、「準備・調理・食べる・片付ける」の全過程を踏まえたものであると伝え、これを本実践では「調理全体」と呼称することにした。すると先ほど躊躇していた児童も発表し始め、食品を選ぶ規準（賞味期限・消費期限など）に関する発言も見られ、普段の生活経験から、調理全体に関わる環境への配慮の工夫があげられた。

次に世界及び日本での食品ロスの量につい

て紹介し、家庭での食品ロスは主に食べ残し・過剰除去・直接廃棄の3種類であることを伝えた。中でも直接廃棄される食品は野菜が多いこと、実践時期（5月下旬）を考え廃棄されやすい夏野菜についても伝えた。すると児童から「もったいない」「ゆで野菜に使えるかも」との声が聞こえてきたため、今回の調理実習では「環境によい」「無駄遣いしない」といった工夫を多く取り入れていこうと伝えた。

食材選びでは、一度目の調理実習の計画とは異なり、「廃棄されやすい夏野菜を使ってみよう」「きゅうりなら食べられると思う」「一度目とは違う野菜で挑戦してみたい」という発言が聞かれた。もちろん好き嫌いに関する話がなくなったわけではないが、「嫌いだから食べない」といった内容ではなく、「嫌いだけでももったいないから食べてみよう」というように、話し合いの内容に変化が見られた。「自分の家の冷蔵庫には何が入っているのだろう」と考えている児童もいたことから、食材の選び方に、明らかに環境への配慮の観点が追加されていたことが伺えた。（資料2）

資料2 児童のまとめ

日本や世界ではたくさんのフードロスがあることが分かって、家でもたくさんのフードロスがあることが分かったので次からは準備→片づけまですべてで環境を考えながら料理したい。（色どりや栄養も考えながら）

世界では、たくさんの食品ロスなどがあり消費期限までにできるだけべたべたして食品ロスをへらしていきたい。あと水の節約などもしたい。

（手書きのワークシートより抜粋）

最後にエコッキングの工夫を加えた調理実習後に振り返りを行った結果、今までの学習「健康・快適・安全」の見方・考え方と「持続可能な社会」の見方・考え方を働かせて調理実習を行っていたことが分かった（図1）。



図1 児童が作ったゆで野菜サラダ

(3) 児童の振り返りより

調理実習を終えた児童の振り返りには、「ゆでる順番を変えることで水を節約することができた」「水の節水が上手くできなかったからもう少し工夫したい」という、環境配慮の視点からの記述や、「食材の無駄を出さずに調理したい」「食品ロスをしないように食べ残しを出さない工夫をしたい」という、食品ロスという社会問題への対策の視点からの記述、「農家さんは大変なので、食べられる部分は捨てないようにしたい」という、社会科の学びとつなげて資源を大切にしようとする視点からの記述、「家庭でも実践したい」「冷蔵庫の中を見てみたい」という家庭生活に生かそうとする視点からの記述などがあった(資料3)。

資料3 エコクッキングの振り返り

できたこと	改善・生かしたいこと
時間内にサラダを作りきることができた。エコクッキングをいしきできた。どんどんちょうり実習が上手くできるようになってきた。	ながいものかわをむいてから切る。家で料理するときは、「エコ」をいしきしたい。今回で、しめじサラダなど新しい野菜のゆで方を知った。
いつもより水や洗剤を少なく使うことを意識できた。2つの野菜を同時に同じなべでゆでたので水を節約できた。ニンジンのへたを切る時にへたを小さく切って半月切りにしたので見た目もよくなりエコクッキングできた。	今日は味や見ため、色どりも考えながらエコクッキングを出来たので、次回から調理実習のときは味見ため色どり、エコを考えながら調理したい。
野菜を同時にゆでることで水をせつやくすることができた。ゆでた水をそのまま使ってちがう野菜をゆでることで水をたくさんせつやくすることができた。にんじんが思ったよりやわらくてドレッシングがたくさんしみこんでいておいしかった。	思ったより、キャベツが白くて緑がなくなってしまったので次はもう少しこう、きゅうりなどでやってみよう。食器などを洗うときにたくさん水をつかってしまった。たまごのからをうまくむくことができずにとれるときにシャリシャリしてしまったのでこんどはさいごに水をながしてからをきれいにはがしたい。

(手書きのワークシートより抜粋)

これらの記述から、社会的背景と向き合うことで、家庭生活や学校生活の中で実現可能な解決策を考えようとしていると感じた。こ

れが、児童が学びを自分事として捉えた結果だと考える。環境に配慮しながら調理することを自分事にし、自己の生活を問い直す実践のねらいに対し、社会的背景を取り入れることによる一定の成果が見られたと考える。

Ⅲ おわりに

食品ロスという社会的背景と家庭生活をつなげたことにより、児童の食材選びの観点は広がった。好き嫌いだけに偏らずに、捨てられてしまう野菜を進んで使おうとする姿勢が見られた。これにより、社会的背景とのつながりは、家庭科での学びを自分事として捉えることにつながると考える。

またエコクッキングの工夫を考えたことで、これまで意識されていなかった「準備・調理・食べる・片付ける」という調理の一連の流れを意識化することができた。この見方はさらに、買い物の仕方や商品の選び方など、消費分野との接続を強化したり、他分野との結びつきを容易にしたりするきっかけにできるのではないかと考える。そうすることで、家庭生活を分野ごとに別々に考えるのではなく、関連した一つの暮らしの中のこととして取り扱うことができる。これもまた、家庭科の学びを自分事として考える助けになるのではないかと期待している。今後、修正を加えながら実践を続けていきたい。

注

- 1) 授業者は浅野、川野と山根は共同研究者である。筒井は専門的見地から助言を行った。

参考文献

- 土屋義和、2020「生活を問い直す」堀内かおる編『生活をデザインする家庭科教育』世界思想社：32-43。
堀内かおる、2020『生活をデザインする家庭科教育』世界思想社。